

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田、北村	写真・後藤、北村
山行番. NO. 2034		
日時	2024年3月10日(日) 晴・風なし	
山域	北八ヶ岳・蓼科山(2531m) 将軍平	
コース	下土狩 4:55-竜源橋駐車場 7:50-登山開始 8:00-将軍平分岐 9:56-ワカン装着ラッセル開始 10:24-標高2111mで上りを止め下山開始 11:40-将軍平分岐(昼食) 12:11~12:32-登山終了 (竜源橋駐車場到着) 13:43-小斎の湯(入浴・休憩)-長泉到着 19:01	
標高差	登山口・約1650m~最高到達点2111m=約461m	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易し	
蓼科の南回りは雪深く、撤退者続出だった		
ど〜が〜	https://susono-reihou.babyblue.jp/00-45mp4.mp4	
参加者	後藤、北村、山田=3名	

3月第2週は8日金曜日と9日土曜日の1泊2日で八ヶ岳の赤岳に登る予定だった。しかし、天気は悪く、金土はあきらめ、日曜日もやや悪天候だとしても登れそうな蓼科になった。

ただ登山者が多いスズラン峠からではなく、竜源橋から滝ノ湯川沿いを進み、将軍平の分岐から山頂をめざす。こちらの方が登山者も少なく雪も多いから雪山の訓練には良いからだ。



(北村)

(北村)

我々が予定していた竜源橋駐車場には、幸い1台分スペースがあり駐車できた。しかし、ビーナスラインの側道スペースは、あちこちで車が停車されていた。それらはスズラン峠駐車場で停められなかった車が流れてきているようだった。

予想より天気はよく、風も無風。歩きだすと暑いくらいだ。ほぼ平地感覚の樹林帯の中を約2時間歩く。将軍平の分岐に来たら、数名のパーティの人たちが休憩している。声を

かけたら、雪が深すぎて撤退してきたという。その人達の話によると、トレースを辿って登ろうとしたが、そのトレース跡が正規ルートとずれていて、途中で気づいてから軌道修正するにも、雪が深すぎて、前に進めないのが、あきらめたという。

これは覚悟していかなければと気を引き締める。アイゼンからワカンに履き替え、KはGPSでルートを確認しながら進むことにした。実は私はまだワカンを履いて歩いたことがなかった。

昨シーズン、ワカンは持って歩いていただけだ。前日にワカンの締め方を復習したが、いざ現場で装着となると、雪の斜面の角度や、寒さで指先の感覚がなかったりして、装着したつもりでも、しばらく歩くと緩んだりして、安定しない。ワカンを締め直すためにGとKには、先に行ってもらおう。



分岐



早くも撤退パーティー

分岐を越えてから、防衛大学の7名前後のパーティと、そこについて歩いていた女性2名の隊とすれ違ったが、彼らも雪の深さと帰宅時間の制限があり、とても登頂は難しいと判断したので、撤退するという。

YAMAPで現在地と予定コースを確認する。彼らの進んだトレースよりもっと左側に進行方向を変えて進まないといけないことはわかった。GとKも同じ認識で、どこかでトレースを外れて左側に進んでいるはずなので、自分のワカンを調整し直した後、トレースを進みながら、左に入っているGとKの踏み跡を探した。

結局、私はGとKが進んだコースが見つけれず、電話も繋がらないので、合流はあきらめて、GとKが戻ってくるのを分岐で待つことにした（事前に現状を見て登頂はあきらめて、12時目処で戻ろうと分岐を出たところで話していた）。20分ぐらい分岐で待っていたらGとKが戻ってきて合流できた。

ラッセルでルート修正をして2111mまで登った記録はこのあとのKの文として残すが、途中ではぐれてしまった私の大きな反省としては、そもそも事前のワカン装着の確認と準備が不十分だったこと、あとワカン調整にかかる時間の見積もりが甘く、少し遅れても、いつもの通りすぐに追いつけると思った。



蓼科山（北村）

今回の雪山の状況ではそれは難しかったことが挙げられる。結局、個人的には不完全燃焼の撤退となったが、トレースを信じる恐ろしさなど雪山の勉強になることが多かった。（余談だが、次週の谷川岳で何気なくYのワカンを見て実際履いてみたら、実は、装着が前後逆だった。上手くいかない原因はこれだった）（バラしてゴメン！！）

【以下、文・北村】

■分岐から蓼科山荘への登山道をラッセル

1. 将軍平分岐の先ですれ違った登山者からの情報で、現在位置(トレース)は登山道から外れており、且つトレースはこの先で消える事が分かった。
2. すれ違ったパーティは3組、皆登頂を諦め引き返していた。後藤CLは、時間を決め行けるところまで正しい登山道をラッセルで進もうと判断した。
3. 3人でワカンを装着する。山田さんは、装着が完了していなかったが、ラッセルはゆっくりしか進めないから、すぐに追いつける。後藤CLからラッセルの先発と先進を指名され先に歩き出した。
4. まずは、正しい登山道を探す。

現在位置が登山道の東に反れている事はGPSでも確認していたので西の方角に進む。新雪だが地形が分かる程度の積雪なので、道らしい地形を探りながら注意深く進んだ。100mほど歩いた場所で後藤CLがピンクテープを見つけて教えてくれた。良く見ると



ガチ・ラッセル

踏み後の面影が先へと続いているのが確認できた。

5. その後は、適度な間隔でピンクテープもあり、迷う事もなく登山道を進めた。途中、動物らしき足跡もあったが惑わされる事はなかった。徐々に疲れを感じてきたが、山田さんが来るまではとペースダウンせず踏ん張った。
6. 沢の地形になる。沢の中は雪も深く危険なので、なるべく縁を歩くよう注意を受けた。縁に上がる傾斜面は雪が深く、つま先側を斜面に蹴り込むようにして這い上がった。岩と岩の間なのか何度か雪深い場所も踏んだが、進路を修正しながら進むことができた。
7. 途中で「山田さん遅いね」と心配になる。後藤CLが「レイ・ホー!」と大声で合図を送ったが応答はなかった。直後、CLの電話に山田さんから電話が入る。電波が弱く声が途切れ、会話は出来なかったが、声からケガ等のトラブルでは無さそうとゆっくり先へ進んだ。自分にもラインを送ってくれていたが、受信が遅れて気づけなかった。
8. 15分ほど歩いた場所で、この日の上りは終了となった。
予定時刻より少し早かったが、地形と積雪状態から危険も潜んでいるとの後藤CLの判断だった。雪もかなり深そうに見えた。下山は自分達がつけたトレースがあるので軽快だったが、足の疲れなのか、何時もよりバランスを崩しやすかった。
9. 将軍平分岐で山田さんが待っていた。
後藤CL、北村の進んだ方向に迷ったため、無理に動かず確実に合流できる場所に引き返したとの事。先にスタートするとき、大丈夫かと声かけ確認すべきだったと反省している。初めてのラッセル、進路の判断、自己の反省点、良い経験になった。

(タイトルは、「そして誰も居なくなった」にしたかった??!! (笑))

